

# 環境保全米を全面に出した産地作りと販路開拓

みやぎ登米農協(宮城県)

## 取組の概要

- 時宜を得た大胆な設備投資による環境保全米生産の迅速な普及と効率化
- 土地に応じた生産基準の設定や生産履歴記帳による環境保全米生産の実効性と信頼性を確保
- 卸と連携し、登米産米を消費者にアピール

## 事業化(プロジェクト化)成功のポイント

### 1 時宜を得た大胆な設備投資による環境保全米生産の迅速な普及と効率化

- ① 平成14年に、JAが環境保全農業の推進を組織決定し、産地間競争に打ち勝つ「売れる米づくり」を目指す
- ② 平成15年の冷害で環境保全米の被害が小さかったことや、農業共済組合の支援で管内全域をカバーする台数の温湯消毒機を導入できたこともあり、管内全域の取組へ一気に拡大
- ③ 平成22年度に大型・高性能の温湯消毒機に更新し、施設の一元化、作業の効率化

### 2 環境保全米生産の実効性と信頼性を確保

- ① 土地に応じて無理のない栽培方法を推進し、「環境保全米」をA～Cの3タイプに区分する生産基準の設定を通じて、化学肥料・農薬使用を押さえることで収量が落ちることがないようにする
- ② JAの指導のもとで、環境保全米の生産履歴の記帳を実施

### 3 販路開拓の努力

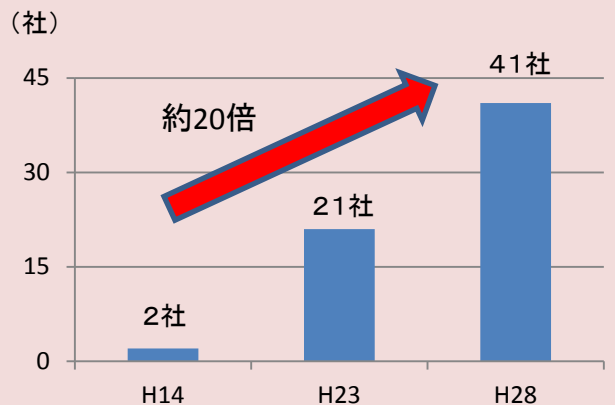
卸と連携し、JAみやぎ登米専用米袋を作り、店頭で登米産米を消費者にアピールするなどにより、契約栽培が拡大

## 農協のメリット・農家のメリット

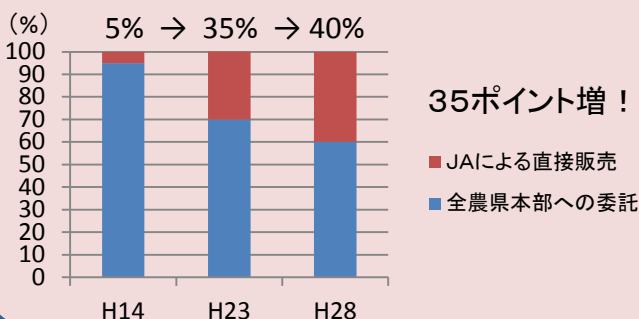
### <環境保全米の作付面積推移>



### <全農を通じた委託販売における契約栽培の拡大>



### <集荷量に占めるJAみやぎ登米が直接販売する米の割合>



○ 直接販売により、全農を通じて販売することによる掛かり増し経費が削減され、これに相当する金額が生産者に還元

○ 環境保全米は、慣行栽培米に比べ、1俵当たり約200円高値で販売